

東アジア言語領域

准教授 孫 ミギョン

専門分野

日・韓地域研究
日・韓の社会と文化(コンテンツ)
エスニックコミュニティ研究

学位・資格

博士(文化コンテンツ)

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

近年、外国人住民の増加により、日本国内には多様なエスニックコミュニティおよびエスニック空間が形成されつつある。こうした空間は、単なる生活圏にとどまらず、日本社会における文化的接点として機能しており、多文化的実践や異文化交流が日常的に交差する場となっている。その存在は、ローカルな文脈においてグローバルな経験を可能とする、いわば「縮約された地球規模空間」としての意義を有している。現代のように複雑化・多極化する国際社会においては、単なる語学力や知識以上に、相手の価値観を的確に捉える感受性や、文脈を読み解く共感性が不可欠である。

私は、エスニックコミュニティの形成やその社会的機能に関する研究に加え、青森県庁国際交流員としての実務経験、ならびに北東アジア地域自治体連合(NEAR)事務局における各国との実質的な交流活動を通じて、地域・国家間を横断する知見を培ってきた。

今後は、これらの実践と理論を架橋しつつ、学生が多文化的視座を獲得し、国際的感覚と創造的思考を兼ね備えた人材として成長できるような教育環境を構築していきたいと考えている。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

大阪・生野とソウル・加里峰洞という二つのエスニック空間を対象に、成り立ちや歴史的背景、地域社会との関係性に着目した比較研究を進めている。両地域は、それぞれ異なる社会的文脈と移民の歴史を持ちながらも、多文化が交差し、摩擦と共生の実践が日常的に展開されている点で共通している。こうした空間においては、周縁化された声や文化的軋轢だけでなく、それらを乗り越えようとする住民主体の対話や創造的な取り組みが見られる。現在は、これらの事例を通じて、地域における葛藤と調整の過程を丁寧に分析しながら、多文化社会への移行に伴う課題と可能性、そして都市空間における新たな公共性のあり方について探究している。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

自分の興味を深め、挑戦を後押ししてくれるゼミ

私たちのゼミでは、韓国と日本の文化の違いや、現代韓国の社会事情について書かれたさまざまな資料を読みながら、韓国に対する理解を深めていくことを大きな目的としています。授業では、先生ご自身の体験を交えたお話も多く、教科書だけではわからないリアルな韓国を知ることができるのも魅力です。

また、希望者には韓国語能力試験(TOPIK)の長文対策にも取り組む機会があり、読解力や表現力の向上にもつながっています。

私は、日韓のスピーチコンテストに参加した際、韓国語の難しい発音について丁寧に指導していただき、大会では良い結果を出すことができました。さらに、韓国の大学への編入準備を進める中でも、わからないことがあればいつも親身になって相談に乗ってくださっています。

ミギョン先生は、学生一人ひとりの挑戦を大切に、温かく背中を押してくれる存在です。韓国語を基盤に、韓国文化全般について学びながら、自分の視野や興味を広げることができるゼミです。